



## 冬ねぐらに集合したカラスの内訳

	飛来方向	羽数	予測飛来地
①	北	210羽	釈迦内、矢立方面
②	北	1,035羽	中心市街地、御成町方面
③	北東	1,105羽	雪沢、小坂町方面 (かなり上空を飛んできた)
④	東	48羽	東台、山王台方面
⑤	南	74羽	餌釣、山館方面
⑥	南西	772羽	扇田、二井田、 十二所、鹿角方面
⑦	西	211羽	真中、下川沿、田代方面
合計		3,455羽	

平成18年1月中旬⑧  
萩野台が中間集合地点となり、「冬ねぐら」が池内の八幡神社の杉林に移動。  
2月中旬以降⑨  
さらに「冬ねぐら」が餌釣の杉林に移動。  
※冬ねぐらが移動しながら大きくなるのは、集団の規模が、だんだん大きくなるため、収容力の大きな林に移動するのではないかと思われます。  
**冬は市内に約3,500羽が大集合**

市内で冬期に生息するカラスの総数を把握するために、「冬ねぐら」に入るカラスを計測した結果が上の図と左の表です。調査は1月29日の夕方、ねぐら(B地点)のまわりにエリアを設定し、このエリアに入ったすべてのカラスを飛来方向別に計測しました。この結果、合計3,455羽のカラスが、このねぐらに集合しました。  
**地元のカラスは約1,700羽**  
比較的早い時間にねぐらに到着したのは、約1,700羽で、これが比較的にこのねぐらの近くから集まってきた地元のカラスと考えられます。

このうち、1,035羽が、中心市街地や御成町方面から飛来しています。  
このうち、柄沢方面からの集団③は、後の調査で、日中は小坂町周辺に生息している群れが雪沢を経由し、断続的に長木川沿いに下って合流していることが確認されました。  
そのほか、鹿角方面から来ている遅い時間に到着していると考えられ、大館に形成された冬ねぐらには、市内のカラスだけでなく市外からも相当数が合流しているらしいのです。

### ごみステーションと

### カラスの飛来数

中心市街地のごみステーションとカラスの関係も調査しました。

2月6日のごみ収集日に、それぞれの区域のカラスを数えた調査では、カラスが導入された黄色ネットのごみステーションにはほとんど寄り付かず、ガードの甘いごみステーションに移動している傾向が分かりました。

大館自然の会では、毎月この調査を継続しています。その詳細は、6、7ページに掲載しておりますのでご覧ください。